

## 校長の話

校長 上村 哲也

2学期は分散登校でのスタートとなりました。全員でこの式を迎えることができないのは残念ですが、緊急事態宣言が出されているような状況で、夏休み中、健康に気をつけて生活し、今日、元気に登校できたことは、素晴らしいことでありとてもうれしく思います。



ところで、1学期の終業式の時、「東京2020オリンピック・パラリンピックからたくさんのことを学び、特別な夏休みを楽しみましょう」という話をしました。皆さんはどんなことを学ぶことができたのでしょうか。

今日もパラリンピックの競技が行われています。8月24日（水）に開会式が行われましたが、そこに、車イスに乗った中学2年生の和合由依（わごうゆい）さんが登場し、「片翼の小さな飛行機」の物語を演じました。片方の翼しかないために一度は空を飛ぶことをあきらめた飛行機が、他の飛行機と出会う中で自分の持つ力に気づいて前に踏み出す決意を固め、最後は滑走路を車いすで走り、無事飛び立つというものでした。この物語には、困難を乗り越えてこれからの戦いに臨む選手たちの姿が重ねられています。一生懸命に主役を演じる姿に感動を覚えた人も多かったと思います。

和合さんは、生まれたときから手足が自由に動かないという障害がありましたが、「学校の先生や家族に頑張っている姿を見せたい」と思い、オーディションに応募し選ばれたのだそうです。週に3回、1日8時間という練習を重ね、頑張りすぎて背中を痛めたこともあったそうです。

演技を終えた和合さんは次のようなコメントを残していました。「できないこともあるけれど『やってみればいいじゃん』といろいろなことに挑戦してきました。自分の演技を見て、障害のある人にも感動と勇気を感じてもらえたらうれしいです。」そして、「選手の皆、頑張っただけでね。」と無邪気に手を振っていました。

当たり前のことですが、努力すればすべての事ができるようになるわけではありません。私自身は、和合さんの姿から「まずは挑戦しないことには始まらない。くよくよ考え過ぎずに努力を楽しみ、自分の力を試し伸ばしていこう」というメッセージをいただきました。

さて、今日から始まる2学期は、登校日数も多くじっくり学習に取り組むことができる時期でもあります。また、運動会、校外学習や修学旅行、書道展や美術展など、たくさんの大きな行事が予定されています。色々な活動を行う中で、友だちと協力したり譲り合ったりしながら「みんなで力を合わせる楽しさ」を十分に感じてほしいと思います。

そのためには、自分から進んで参加することが大切になります。思い切っていろいろな事に挑戦し、もっている力をどんどん伸ばしてほしいと思います。わたしたち職員も、そのようなみなさんの成長を楽しみにしています。



